

立山の自然を探索

— 立山自然観察実習 —

- ◇期 日 令和元年7月20日(土)～21日(日)
- ◇場 所 立山カルデラ砂防博物館
美女平、弥陀ヶ原、天狗平、室堂
- ◇参加者 第1学年探究科学科生徒40名
- ◇指導者 富山県ナチュラリスト協会会員3名
富山県天文学会会員2名、本校教職員5名

7月20日から21日の2日間、立山自然観察実習を行った。天候が心配されたが、大雨が降ることなく調査に適した気温の中で多くの自然と触れ合うことができた。

初日、最初に訪れた立山カルデラ砂防博物館では、立山カルデラの歴史や、富山の治水対策について学び、理解を深めることができた。その後、美女平に向かいタテヤマスギの樹形から積雪深を推定したり、植物群落の調査によって群落内の被度や優占度を求めたりした。足元の悪い中、職員と協力し合いながら積極的に調査に励んだ。



弥陀ヶ原では、植生や池塘の調査、立山カルデラの観察など

を行った。また、事前に許可を得て、代表者のみではあったが、普段は入ることのできない池塘のすぐ近くまで行き、池塘のpHの測定などもすることができた。



夜はあいにく曇っていて天体観測はできなかったが、富山県天文学会の先生方による講話を聴くことができた。先生方の講話はとても興味深く、短い時間ではあったが本当に多くの知識を得ることができた。これからはまた違った角度や視点で星空を見られそうだ。

翌日は天狗平から室堂に生息する高山植物の観察を行った。富山県ナチュラリスト協会の先生方の説明を受けながら、高山植物の色や形や生息環境を観察しながら散策した。室堂では、60年に一度しか咲かないといわれているチシマザサの花やライチョウを見ることができた班があり、感動の声があがった。



2日間を通して、立山の自然について理解を深めることができた。ただ「見る」だけでなく「観察する」ことの大切さを学ぶことができた。ただ「見る」と注意深く「観察する」のでは、見えるものが違うことを実感した。この実習を通して、今まで気がつかなかった道端の植物にも注意深く目を向けることができるようになった。この実習で学んだことを、今後の探究活動で活かしていきたい。